

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	地すべり対策		路河川名等	(地)スドウチ		
事業毎の通番	1	市町村名	天龍村	箇所名(ふりがな)	スドウチ	
事業目的	天竜川支川である芝沢川の上流に位置するスドウチは、地すべり地形を有し、R27豪雨の際にも地すべりが発生した。当該区域において更に地すべりブロックが滑動すると、人家や道路に影響を与える可能性がある。このため、早急な対策を実施し、保全を図るものである。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法		
関連する事業、計画等	—					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家1戸、国道、村道					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2027年度(令和9年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工程)	集水井 N=1基、横ボーリング工 ΣL=1500m			180,000	90,000 45,000 45,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的) 人家1戸、国道、村道					
	間接的効果(定量的・定性的) 地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、常住人口の維持や減災が期待される。					
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 1戸 ○公共施設 : 県道、村道 ○河川への土砂流入量 : 25万m3			評価	B
	重要性	○災害履歴 : 令和2年7月豪雨(2020年) ○交通影響 : 影響度大 ○地域防災計画上の位置付け : 長野県・天龍村地域防災計画(土砂災害警戒区域の指定あり)			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.13 ○事業期間 : 5年間 ○工法比較検討 : あり			評価	B
	緊急性	○地すべり活動度 : 顕著な動きがある ○地すべり変状 : 変状あり ○下流整備状況 : なし			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(天龍村から要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 予定されていない ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 課題等整理表 整理番号:1-4-1			評価	B
所管課の意見	当箇所では近年、湧水現象や村道にクラックが生じ、更に地すべりブロックが滑動すると、人家被害や村道の寸断による孤立集落、下流域で国道に影響を与える可能性があるため、早期に事業を実施する必要がある。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】	
位置図 	平面図 
写真① 	写真② 村道のクラック 
事業概要説明図表	
事業周辺環境	
① 事業実施に至る歴史的背景・社会的背景	当該地区は、令和2年7月豪雨により地すべりが発生し、村道に変状が生じた。天龍村で村道の応急復旧を実施したが、その後も村道の変状が収まらず、想定より大きな地すべりブロックが確認された。今回、地すべり変状に伴う人家被害と村道寸断による孤立対策や芝沢川への地すべり土塊の流入に伴う下流にある国道への被害を防ぐため、地すべり対策事業を実施するもの。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和2年7月豪雨の災害を契機として、地すべり防止対策施設の整備要望あり。
③ 事業説明等の経緯	役場を通じて関係地権者への説明し、同意を得ている。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	—
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。工事に伴う地形改変を極力少なくするような計画を検討している。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。
⑦ その他	地すべり防止区域申請予定
事後・再評価からのフィードバック	施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 14' 17" 東経:E 137° 47' 33"